

エコアクション21

環境活動レポート

(平成30年度版)



一般財団法人 山口県環境保全事業団

令和元年6月30日 発行

目 次

	頁
環境方針	1
1. 事業の概要	2
2. 組織図及び認証・登録範囲	5
3. 当年度及び中期環境目標	6
4. 当年度の主要な環境活動計画	6
5. 目標と実績	8
6. 期間中の主要な環境活動計画及び取組結果とその評価	9
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
8. 代表者による全体評価と今後の取組	10
9. その他	10

環境方針

環境理念

一般財団法人山口県環境保全事業団は、山口県における産業廃棄物の適正処理を行うとともに、環境保全に関する各種事業を行い、本県の快適な生活環境の保全と産業の発展に寄与することを目的として事業を展開します。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し継続的な取組を進めるため、この行動指針に環境目標及び活動計画等を定め、実効性のある活動を展開します。

1. 電気や燃料を節減し二酸化炭素の削減に努めます。
2. 廃棄物の削減
書類の電子化を推進するなど、紙使用量の削減を図ります。
3. 水使用量の削減
節水に努め、水使用量を削減します。
4. 化学物質の適正使用に努めます。
5. 産業廃棄物の最終処分において、環境保全に配慮します。
受入基準の順守を徹底するとともに、環境関連法規や自主基準を守ります。
6. 物品等の調達にあたっては、グリーン購入に努めます。
7. 事業活動に関連する環境関連法規や条例等を遵守します。
8. 地域社会と良好な環境コミュニケーションを図り、地域の環境保全に努めます。
9. この環境方針は、従業員全員に周知するとともに、研修や教育を行い環境保全に向けた意識の向上に努めます。

平成29年7月1日制定

一般財団法人 山口県環境保全事業団

理事長 山野 元

1. 事業の概要

(1) 事業所名 一般財団法人 山口県環境保全事業団
 (2) 代表者名 理事長 山野 元
 (3) 所在地 本部 山口県山口市大手町9番11号
 TEL 083-920-6828
 FAX 083-920-6829
 E-mail info@yamaguchi-khi.or.jp

新南陽管理事務所 山口県周南市臨海町6番地
 TEL 0834-33-9280
 FAX 0834-33-9281
 E-mail info@shin-nanyo-khi.jp

最終処分場

徳山下松港新南陽広域最終処分場
 山口県周南市富田字西ノ嶋593番地先公有水面
 (直営 新南陽管理事務所)
 宇部港東見初広域最終処分場
 宇部市大字沖宇部525番124等の地先公有水面
 (業務委託先 宇部興産コンサルタント㈱)

(4) 環境管理責任者 常務理事 (事務担当) 田中 俊彦
 常務理事 (事業・技術担当) 永富 明彦

(5) 環境管理担当者 (本部) 事務局長 田原 博行
 (新南陽管理事務所) 副所長 蔵永 浩治

(6) 事業内容 産業廃棄物の最終処分及び一般廃棄物の埋立受託業務
 環境保全活動の助成業務

(7) 事業の規模

法人設立年月日 平成19年4月1日
 基本財産 110,695千円

項目		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
最終処分量	産業廃棄物	t	74,845	59,246	66,703
	一般廃棄物		2,948	2,510	1,920
売上高		百万円	617	495	551
従業員数	本部	人	7		
	新南陽管理事務所		14 (埋立業務受託者8名を含む。)		
埋立面積		m ²	38,676m ²		

(8) 事業年度 4月～3月
 (今回の活動レポートの対象期間は、平成30年4月～31年3月)

(9)業に関する許可内容等

①産業廃棄物処分業

- ・許可権者 山口県知事
- ・許可番号 第03533176553号
- ・許可年月日 平成26年3月6日（当初）
- ・有効年月日 令和8年3月5日
- ・事業の区分 最終処分（埋立処分）
- ・産業廃棄物の種類
廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く。）・陶磁器くず（自動車等破砕物を除く。以上3種類）、燃え殻、汚泥、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、鋳さい、がれき類、ばいじん、13号廃棄物（これらは、石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。）

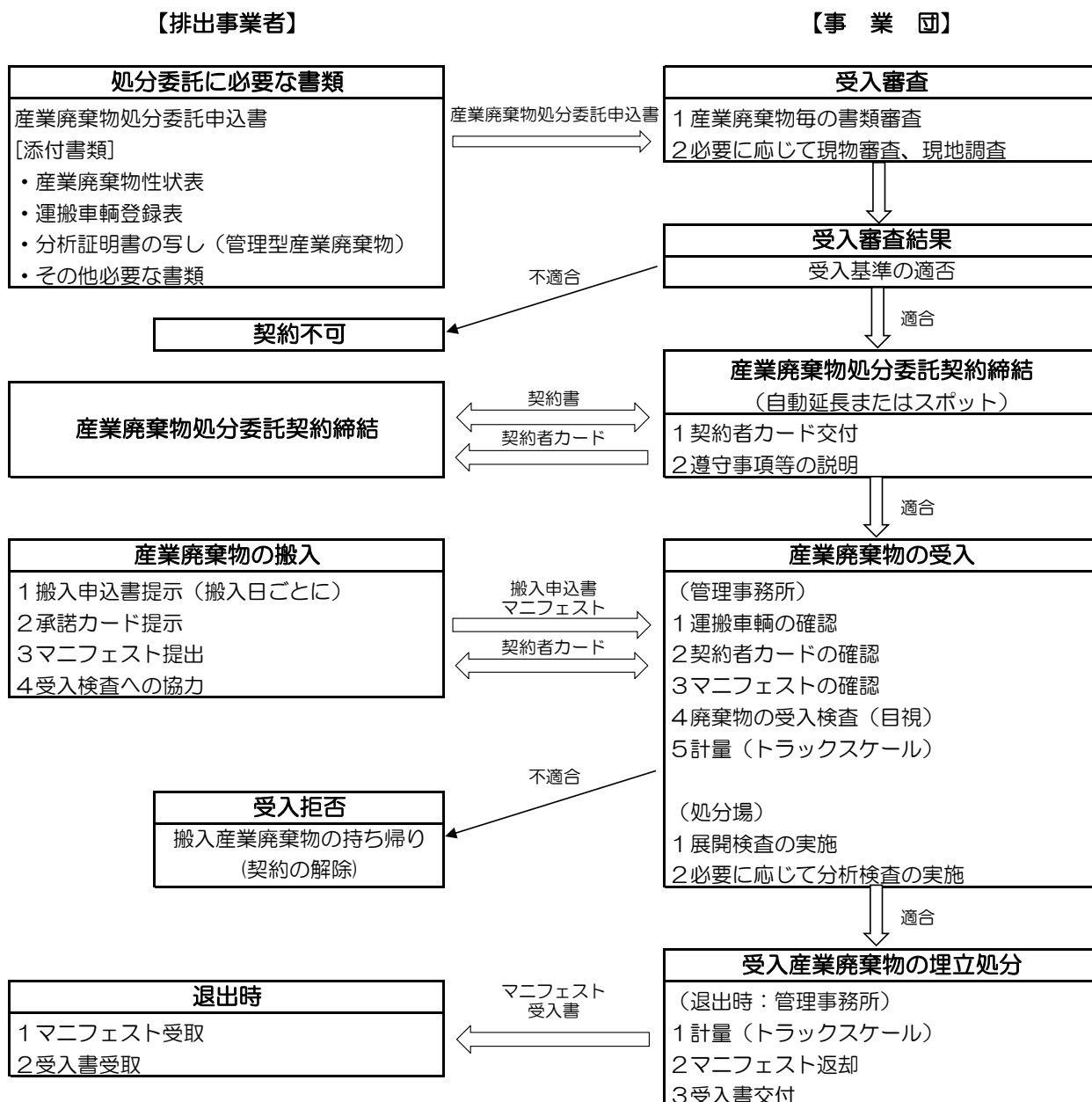
②事業の用に供する全ての施設

- ・種類 管理型最終処分場
- ・設置場所 山口県周南市大字富田字西ノ嶋593番地先公有水面
- ・設置年月日 平成25年12月26日
- ・面積 38, 676 m²
- ・容量 498, 400 m³
- ・許可年月日 平成17年5月23日
- ・許可番号 第16号の13

※ 一般廃棄物については、周南市の委託を受け不燃ゴミを最終処分している。

(10) 廃棄物の受入管理体制

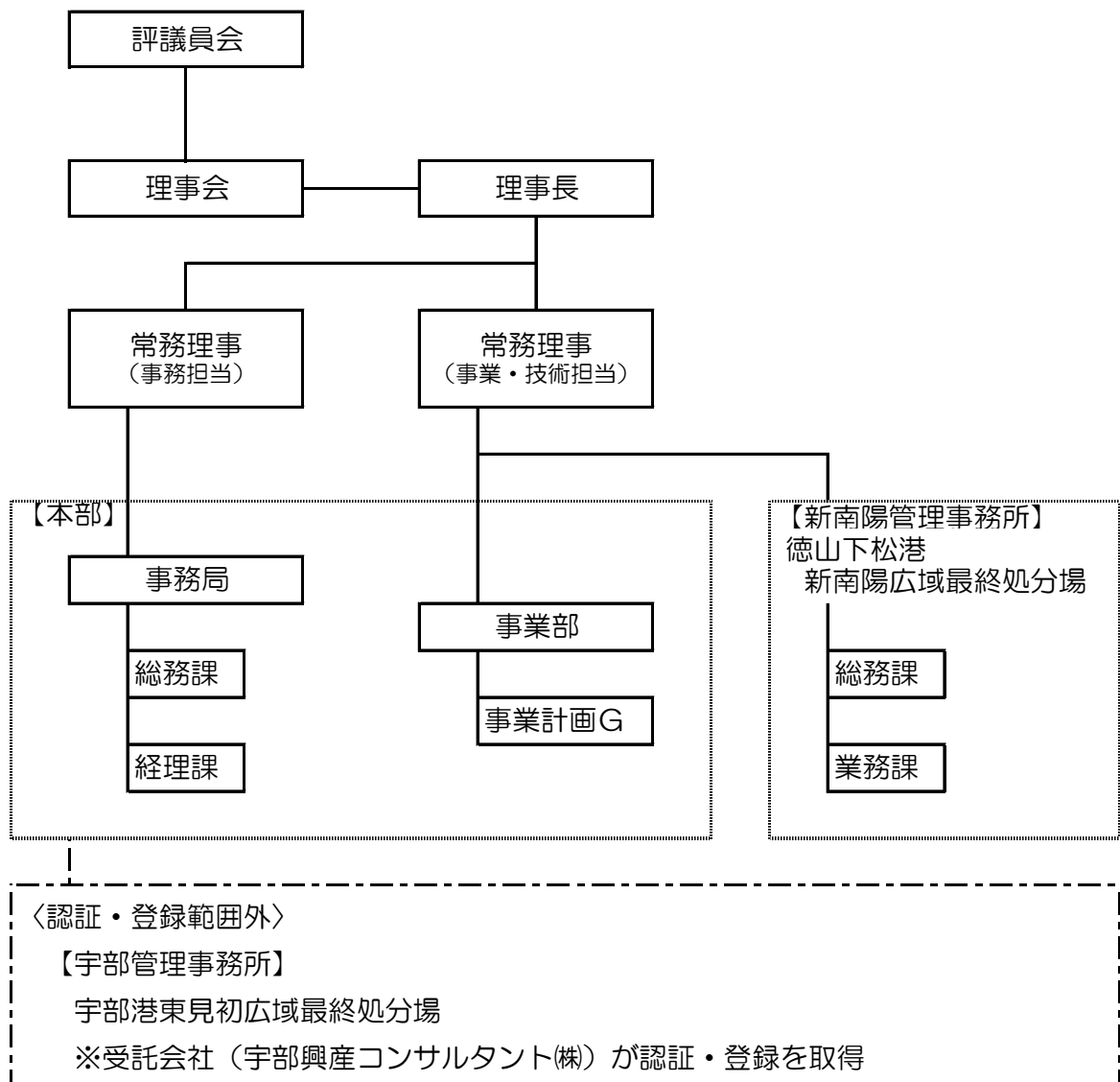
廃棄物の受入は、原則として下記フローに示す段階ごとに受入基準と合致していることを検査し適合したものを埋立処分する。



2. 組織図及び認証・登録範囲

- (1)対象事業者名 一般財団法人 山口県環境保全事業団
- (2)対象事業所 本部
新南陽管理事務所（徳山下松港新南陽広域最終処分場）
- (3)対象外事業所 宇部管理事務所（宇部港東見初広域最終処分場）
（業務委託先 宇部興産コンサルタント(株)で取り組む）
- (4)対象活動 産業廃棄物処理業（最終処分）
一般廃棄物の最終処分（周南市委託業務）

一般財団法人山口県環境保全事業団 組織図
（平成31年3月末日現在）



3. 当年度及び中期環境目標

項 目	単位	(基準)	目 標			
		平成27年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	128,695	126,120 以下	124,830 以下	123,540 以下	
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /百万円	250.4	245.4 以下	378.3 以下	374.5 以下	
1-1 電力使用量の削減	kWh/百万円	166.4	163.1 以下	362.8 以下	359.2 以下	
1-2 ガソリン使用量の削減	ℓ/百万円	3.3	3.2 以下	3.2 以下	3.2 以下	
1-3 重油使用量の削減	ℓ/百万円	0.8	0.8 以下	0.8 以下	0.8 以下	
1-4 軽油使用量の削減	ℓ/百万円	47.5	46.6 以下	46.1 以下	45.6 以下	
廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量の削減	kg/百万円	0.8	0.8 以下	0.8 以下	0.8 以下
水使用量の削減	節水活動の推進	m ³ /百万円	1.6	1.6 以下	6.1 以下	6.0 以下
化学物質の適正管理	—	適正に管理する。				
環境法規等の遵守	—	法規や自主基準を遵守する。				
環境配慮	—	グリーン購入を励行する。				
地域の環境保全	清掃活動への参加	2回/年	2回/年	2回/年 以上	2回/年 以上	2回/年 以上
環境保全意識の保持向上	—	環境保全意識を保持向上する。				

* 電気のCO₂排出係数は、中国電力㈱の平成27年度の0.697 CO₂/kWhを用いた。

* 次の理由により令和元年度の目標値を見直した。

- ① 電力使用量は、余水処理施設の常時運転化により、また、水使用量は、最終処分場の陸地部への散水開始により増加する必要があるため。
- ② 令和元年度は、売上高が減少が見込まれるため。

4. 当年度の主要な環境活動計画

(1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電力使用量の削減

- ・ エアコンの設定温度を決め、実行する。
- ・ 昼休み、残業時の不要な照明の消灯をする。
- ・ 長時間席を離れる時、パソコンを電源OFF、省エネモードにする。
- ・ エアコンは定期的にフィルターの清掃をする。
- ・ 余水処理施設の適正管理に努める。
- ・ 緑のカーテンを設置する。

② ガソリン使用量の削減

- ・ エコドライブを励行する。
- ・ アイドリングストップを励行する。

- ③ 重油、軽油使用量の削減
 - ・重機、車両の空ぶかしをしない。
 - ・アイドリングストップを励行する。
 - ・重機等の効率的な使用と不必要な使用をしない。

- ④ 特定非営利活動法人活動支援
 - ・J-クレジットを購入し、活動を支援する。

(2) 廃棄物排出量の削減

- ① 一般廃棄物排出量の削減
 - ・ペーパーレス化を推進する。
 - ・裏紙を使用する。
 - ・一般廃棄物の分別により資源物に回す。

(3) 水使用量の削減

- ① 節水活動の推進
 - ・節水活動を励行する。
 - ・廃棄物搬入車両の洗車は必要最小限にするよう指導する。

(4) 化学物質の適正管理

- ① 化学物質を適正に管理する。

(5) 環境法規等の遵守

- ① 法規や自主基準等を遵守
 - ・日常監視やモニタリングを行い法規等の遵守を徹底する。

(6) 環境配慮

- ① グリーン購入の励行
 - ・事務用品のグリーン購入を励行する。

(7) 地域の環境保全

- ① 地域の環境保全への貢献
 - ・NGO等の環境保全活動を支援する。
 - ・清掃活動や不法投棄廃棄物回収活動へ参加する。
 - ・施設見学者の受入に努める。

(8) 環境保全意識の保持向上

- ① 従業者全員の環境保全意識を保持向上する。

5. 目標と実績

・平成30年4月～平成31年3月の運用期間の目標に於ける実績は以下のとおりであった。

項 目	単位	平成27年度	平成30年度	平成30年度	目標の達成率 (目標/実績)	目標達成判定
		(基準年)	目 標	実績		
二酸化炭素総排出量の削減	kg-CO ₂	128,695	126,120 以下	107,380	117%	○
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /百万円	250.4	245.4 以下	194.9	126%	○
1-1 電力使用量の削減	kWh/百万円	166.4	163.1 以下	186.9	87%	×
1-2 ガソリン使用量の削減	ℓ/百万円	3.3	3.2 以下	1.8	178%	○
1-3 重油使用量の削減	ℓ/百万円	0.8	0.8 以下	0.0	100%	○
1-4 軽油使用量の削減	ℓ/百万円	47.5	46.6 以下	23.0	202%	○
廃棄物排出量の削減 一般廃棄物排出量の削減	kg/百万円	0.8	0.8 以下	0.4	229%	○
水使用量の削減 節水活動の推進	m ³ /百万円	1.6	1.6 以下	2.3	68%	×
化学物質の適正管理	—	適正に管理する。		適正に管理している。	—	○
環境法規等の遵守	—	法規や自主基準を遵守する。		法規や自主基準を遵守している。	—	○
環境配慮	—	グリーン購入を励行する。		グリーン購入を推進している	—	○
地域の環境保全 清掃活動への参加	2回/年	2回/年	2回/年 以上	2回/年以上	—	○
環境保全意識の保持向上	—	環境保全意識を保持向上する。		環境保全意識を醸成している。	—	○

判定基準 目標の達成率(目標/実績)で判定

○：達成できている(100%以上) △：概ね達成できている(90%以上100%未満) ×：達成できていない(90%未満) —：判定できない

* 電気の二酸化炭素排出係数は、中国電力㈱の平成27年度の0.697 CO₂/kWhを用いた。

《トピックス》

◎特定非営利活動法人が県内で削減したCO₂をJ-クレジットとして購入し、CO₂削減活動の取組を支援した。

	購入量	当事業団のCO ₂ 排出実態 (平成30年度)	
		目標	実績
kg-CO ₂	30,000	126,120	107,380

* 今年度の実績においては、J-クレジットを活用していない。

6 期間中の主要な環境活動計画及び取組結果とその評価

○：達成できている（100%以上） △：概ね達成できている（90%以上100%未満） ×：達成できていない（90%未満）

取組計画	達成状況	評価（結果と次年度の取組内容）
1 二酸化炭素排出量の削減		
1 電力使用量の削減	×	〈評価〉 ガソリン、重油類使用量の削減により総合評価は達成した。 なお、電力については、余水処理施設の間欠運転から常時運転化により達成しなかった。 〈次年度〉 電力について、余水処理施設の常時運転を考慮し、基準の見直しを行った上で、引き続き、削減に努める。
1 エアコンの設定温度を決め、実行する。		
2 昼休み、残業時の不要な照明の消灯をする。		
3 長時間席を離れる時、パソコンを電源OFF、省エネモードにする。		
4 エアコンは定期的にフィルターの清掃をする。		
5 余水処理施設の適正管理に努める。		
6 緑のカーテンを設置する。		
2 ガソリン使用量の削減	○	
1 エコドライブを励行する。	○	
2 アイドリングストップを励行する。		
3 重油、軽油使用量の削減		
1 重機、車両の空ぶかしをしない。	○	
2 アイドリングストップを励行する。		
3 重機等の効率的な使用と不必要な使用をしない。		
総合評価	○	
2 廃棄物排出量の削減		
1 一般廃棄物排出量の削減	○	〈評価〉各月及び年平均いずれも達成していた。 〈次年度〉引き続き、取組を継続していく。
1 ペーパーレス化を推進する。		
2 裏紙を使用する。		
3 一般廃棄物の分別により資源物に回す。		
3 水使用量の削減		
1 節水活動の推進	×	〈評価〉陸地部の粉じん対策散水を開始したので、達成しなかった。 〈次年度〉陸地部面積を考慮し、基準の見直しを行った上で、引き続き、水使用量の削減に努める。
1 節水活動を励行する。		
2 廃棄物搬入車両の洗車は必要最小限にするよう指導する。		
4 化学物質の適正管理		
1 化学物質を適正に管理	○	〈評価〉適正に管理がされている。 〈次年度〉引き続き、取組を継続する。
1 化学物質を適正に管理する。		
5 環境法規等の遵守		
1 法規や自主基準等を遵守	○	〈評価〉法規や自主基準が遵守され、違反や指摘はない。 〈次年度〉引き続き、取組を継続する。
1 日常監視やモニタリングを行い法規等の遵守を徹底する。		
6 環境配慮		
1 グリーン購入の励行	○	〈評価〉着実に実施している。（42件） 〈次年度〉引き続き、取組を継続する。
1 事務用品のグリーン購入を励行する。		
7 地域の環境保全		
1 地域の環境保全への貢献	○	〈評価〉着実に実施している。 （活動支援17件、清掃活動1回、施設見学138名） 〈次年度〉引き続き、取組を継続する。
1 NGO等の環境保全活動を支援する。		
2 清掃活動や不法投棄廃棄物回収活動へ参加する。		
3 施設見学者の受入に努める。		
8 環境保全意識の保持向上		
1 従業者全員の環境保全意識の保持向上	○	〈評価〉年度当初1回、期間中1回実施している。 〈次年度〉引き続き、取組みを実施する。
1 環境保全意識の保持向上に向け研修や教育の実施する。		

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法の遵守状況をチェックした結果、違反はありません。
なお、関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も期間中ありません。

8. 代表者による全体評価と今後の取組

今回の取組（平成30年度）では、二酸化炭素総排出量及び排出量（売上高百万円当たり）は目標を達成した。

自社における削減だけでなく、特定非営利法人が県内で削減した二酸化炭素をJ-クレジットとして購入し、二酸化炭素削減活動への取組を支援した。

令和元年度に新南陽管理事務所に太陽光発電設備を設置し、電力使用量削減の一助とする。

二酸化炭素排出や水使用の形態が変わったので、実態を踏まえ、基準値の見直しを行い取組をすすめる。

9. その他

- 新南陽商工会議所空缶一掃クリーン大作戦への参加（平成30年11月）
- 普及啓発事業として施設見学等研修会を実施（10団体 138名）
- 新南陽管理事務所に太陽光発電設備を設置（令和元年6月）

